

存在と所有の意味概念はいかに日本語の言語現象を説明するか  
—場主語の視点から—

小柳昇（東京外国語大学大学院生）

訂正表 （2011/12/06）

1. 予稿集の図 2 以降のすべての図について

アルの対象物の円の際立ちとモツの円の際立ちの太さを同じとする。

また、モツの場の四角の枠線の際立ちの太さをそれよりも太くする。

※ppt のスライドを参照

2. 予稿集 119 ページ 3.2 節の【基本型】の記述

誤：ヲ格をとる状態動詞（表 1）も基本的にこの B2 に分類される。

正：ヲ格をとる状態動詞（表 1）も基本的にこの A2 と B2 に分類される。

3. 予稿集の図 7

ppt のように図を一部変更

※それに伴って下の 5 のように訂正

4. 予稿集の図 8

ppt のように図を一部変更

5. 予稿集の 121 ページ 3.3 節の③にあった「E」を削除し、②のほうに移動

誤：②…（中略） ⇒ G

正：②…（中略） ⇒ E G

誤：③…（中略） ⇒ E および例文（15）

正：③…（中略） ⇒ 例文（15）